



2023年11月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年7月5日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社エスプール
 コード番号 2471 URL <https://www.spool.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 浦上 壮平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 佐藤 英朗 TEL 03-6859-5599
 四半期報告書提出予定日 2023年7月12日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2023年11月期第2四半期の連結業績（2022年12月1日～2023年5月31日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年11月期第2四半期	13,132	△3.9	1,493	△4.6	1,551	△1.1	1,030	0.0
2022年11月期第2四半期	13,665	17.4	1,565	32.1	1,568	31.0	1,030	32.1

（注）包括利益 2023年11月期第2四半期 1,029百万円（△3.4%） 2022年11月期第2四半期 1,065百万円（36.5%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年11月期第2四半期	13.05	—
2022年11月期第2四半期	13.05	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年11月期第2四半期	20,323	7,827	38.6	99.19
2022年11月期	17,030	7,429	43.7	94.14

（参考）自己資本 2023年11月期第2四半期 7,836百万円 2022年11月期 7,437百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年11月期	—	0.00	—	8.00	8.00
2023年11月期	—	0.00	—	—	—
2023年11月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年11月期の連結業績予想（2022年12月1日～2023年11月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,288	6.1	3,620	17.1	3,596	15.3	2,427	34.2	30.73

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年11月期2Q	79,007,500株	2022年11月期	79,007,500株
② 期末自己株式数	2023年11月期2Q	3,855株	2022年11月期	3,855株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年11月期2Q	79,003,645株	2022年11月期2Q	79,003,645株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

（決算補足説明資料及び決算説明会内容の入手方法）

当社は、2023年7月5日(水)にアナリスト向け説明会を開催する予定です。

その模様及び説明内容については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により経済活動が正常化に向かうなか、緩やかな回復傾向が続きました。一方で、ウクライナ情勢の長期化や原材料・エネルギー価格の高騰、円安進行による物価の高騰等により、依然として景気の先行きは不透明な状況が続いております。

そのような中、当社グループは、ビジネスソリューション事業が、人材ソリューション事業の落ち込みをカバーし、当第2四半期連結会計期間の各利益は、四半期会計期間における過去最高となり、当第2四半期連結累計期間の業績についても前年と同水準まで回復することができました。セグメント別では、ビジネスソリューション事業において障がい者雇用支援サービスの設備販売が過去最高となり業績をけん引したほか、環境経営支援サービスや広域行政BPOサービスなど新サービスも堅調な伸びとなりました。一方、人材ソリューション事業については、コールセンター向けの人材派遣サービスに需要回復の兆しが一時的に見られたものの力強さに欠ける結果となり減収減益となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は13,132百万円（前年同四半期比3.9%減）、営業利益は1,493百万円（前年同四半期比4.6%減）、経常利益は1,551百万円（前年同四半期比1.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,030百万円（前年同四半期比0.0%増）となりました。

なお、当社グループは、社会的価値と経済的な価値の両立を実現することを中期的なビジョンとし、①「既存事業の深堀りによるオーガニック成長の継続」、②「新たな事業領域における成長機会の獲得」、③「ESGを軸とした経営基盤の強化」の3点を重点戦略として定めております。

2023年11月期第2四半期連結累計期間 連結業績

(単位：百万円)	2022年11月期 第2四半期	2023年11月期 第2四半期	増減率
売上高	13,665	13,132	△3.9%
営業利益	1,565	1,493	△4.6%
経常利益	1,568	1,551	△1.1%
親会社株主に帰属する四 半期純利益	1,030	1,030	0.0%

当第2四半期連結累計期間のセグメント経営成績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

①ビジネスソリューション事業

〔事業概要〕

ビジネスソリューション事業では、シニアや障がい者など潜在労働力の活用を支援するサービスや、企業の業務の一部を受託するアウトソーシングサービスを提供しています。前者においては、株式会社エスプールプラスが、障がい者の就労に適した農園を企業に貸し出し、主に知的障がい者の採用・教育から定着化までを支援するサービスを行っています。株式会社エスプールでは、様々な経験やノウハウを有するシニアを企業の経営課題や業務課題の解決に役立てるサービスを提供しています。

後者のアウトソーシングサービスでは、株式会社エスプールロジスティクスが、通販商品の発送を代行する物流サービスを行っています。株式会社エスプールリンクでは、アルバイトやパートの採用業務の一部を代行するサービスを提供しており、株式会社エスプールセールスサポートでは、対面型の会員獲得業務や販売促進業務を行っています。ブルードットグリーン株式会社は、CO₂の排出量算出や環境情報の開示に関するコンサルティング、カーボンオフセット仲介など環境経営の支援に関するサービスを提供しています。株式会社エスプールグローバルでは、複数の自治体の行政業務を一括で受託する広域行政BPOサービスを行っています。

[当第2四半期連結累計期間の経営成績]

障がい者雇用支援サービスにおいては、障がい者の多様な働き方の広がりにより、当社農園サービスに対するニーズも高い水準を維持しました。また、当第2四半期は、新年度に合わせて農園の開設及び納品が集中する時期となっており、その結果、設備販売が四半期における過去最高を更新するなど、力強い成長を示すことができました。ロジスティクスアウトソーシングサービスについては、第3四半期に控えた新センター開設に向けて新規の営業活動に注力したほか、既存センターの安定稼働にも取り組み、増収増益を着実に達成しました。採用支援サービスは、行動制限の緩和に伴い飲食業を中心にサービス業の求人が急増しており、売上の回復が進みました。広域行政BPOサービスについては、マイナンバー関連業務の縮小等により当第2四半期の売上の伸びは一時的に弱いものとなりましたが、地方行政のデジタル化に対するニーズは非常に高く事業拡大の機会となっていることから、センターの開設を積極的に進めました。環境支援サービスにおいては、利益率の高いコンサルティングサービスが拡大したことで利益面を中心に順調な伸びとなりました。TCFD提言に沿った情報開示支援業務が拡大したほか、第3四半期に売上が集中するCDPの回答支援業務の受注も順調に積み上がりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は5,969百万円（前年同四半期比27.5%増）、営業利益は1,621百万円（前年同四半期比22.0%増）となりました。

②人材ソリューション事業

[事業概要]

人材ソリューション事業は、人材派遣サービスを主力とする株式会社エスプールヒューマンソリューションズが提供するサービスで、コールセンター等のオフィスサポート業務とスマートフォンや家電製品等の店頭販売支援業務、ホテル業など接客業務に関する人材サービスを展開しています。サービスの特徴は、フィールドコンサルタント（FC）と呼ばれる同社の従業員と派遣スタッフをチームで派遣する「グループ型派遣」の形態を採用している点になります。派遣先に常駐するFCが派遣スタッフを現場で手厚くフォローすることで、未経験者を短期間で育成できるだけでなく定着率の向上にもつながり、顧客満足度の向上とシェア拡大につながっています。

[当第2四半期連結累計期間の経営成績]

主力のコールセンター業務においては、サービス業を中心とした人手不足感の強まりから、新年度に向けて派遣需要の回復の兆しが見受けられたものの力強さに欠けるものとなり、新型コロナウイルス感染症に関連したスポット業務の減少分を完全に補うまでには至りませんでした。一方、販売支援業務については、主力の通信キャリア関連の派遣ニーズは依然として弱かったものの、人手不足が特に深刻となっているホテルや航空関連の業務に注力したことにより売上の回復が進みました。その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,206百万円（前年同四半期比20.3%減）、営業利益は697百万円（前年同四半期比30.1%減）となりました。

2023年11月期第2四半期連結累計期間 セグメント別業績

売上高 (単位: 百万円)	2022年11月期 第2四半期	2023年11月期 第2四半期	増減率
報告セグメント	13,723	13,176	△4.0%
ビジネスソリューション事業	4,681	5,969	27.5%
人材ソリューション事業	9,042	7,206	△20.3%
調整額	△58	△43	－%
合計	13,665	13,132	△3.9%

営業利益 (単位: 百万円)	2022年11月期 第2四半期	2023年11月期 第2四半期	増減率
報告セグメント	2,326	2,318	△0.4%
ビジネスソリューション事業	1,328	1,621	22.0%
人材ソリューション事業	997	697	△30.1%
調整額	△761	△825	－%
合計	1,565	1,493	△4.6%

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から1,229百万円増加し、8,286百万円となりました。借入金の増加に伴い、現金及び預金が1,280百万円増加しております。一方、人材ソリューション事業の売上減少に伴い売掛金が102百万円減少しております。

当第2四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から2,063百万円増加し、12,037百万円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて、新規農園の建設や既存農園の増設をしており、有形固定資産が2,010百万円増加しております。

②負債

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から381百万円増加し、7,558百万円となりました。短期借入金の返済により50百万円減少しております。一方、長期借入金の追加借り入れに伴い1年内返済予定の長期借入金が485百万円増加しております。

当第2四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から2,513百万円増加し、4,937百万円となりました。長期借入金の追加借り入れにより2,400百万円増加しております。

③純資産

当第2四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により1,030百万円増加し、一方、第23期期末配当により632百万円減少し、7,827百万円となりました。

④キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結累計期間の現金及び現金同等物は前連結会計年度末から1,280百万円増加し、4,493百万円となりました。各活動によるキャッシュ・フローの状況と要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期比148百万円減少の1,413百万円の収入（前年同四半期は1,562百万円の収入）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益が前年同四半期と比較して24百万円減少し1,542百万円、減価償却費が517百万円、売上債権の減少を主要因とした運転資本の増加が60百万円発生したこと及び法人税等の支払額が602百万円あったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期比918百万円増加の2,321百万円の支出（前年同四半期は1,403百万円の支出）となりました。これは、主に株式会社エスプールプラスの新農園建設等による有形固定資産の取得による支出2,257百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、2,188百万円の収入（前年同四半期は163百万円の支出）となりました。収入及び支出の主な内訳は、短期借入金の減少50百万円、長期借入金の追加借り入れによる収入3,000百万円、長期借入金の返済による支出114百万円、配当金の支払額631百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年1月12日に公表いたしました2023年11月期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年11月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,212	4,493
売掛金	3,441	3,338
商品	94	89
その他	313	370
貸倒引当金	△5	△5
流動資産合計	7,056	8,286
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,939	8,769
その他(純額)	1,189	2,370
有形固定資産合計	9,128	11,139
無形固定資産	60	74
投資その他の資産		
繰延税金資産	51	53
その他	732	770
投資その他の資産合計	784	823
固定資産合計	9,973	12,037
資産合計	17,030	20,323
負債の部		
流動負債		
買掛金	261	292
短期借入金	3,450	3,401
1年内返済予定の長期借入金	228	714
未払法人税等	633	498
未払費用	1,428	1,273
賞与引当金	159	166
その他	1,014	1,211
流動負債合計	7,176	7,558
固定負債		
長期借入金	959	3,359
繰延税金負債	148	189
資産除去債務	1,283	1,368
その他	33	20
固定負債合計	2,424	4,937
負債合計	9,601	12,496
純資産の部		
株主資本		
資本金	372	372
資本剰余金	246	246
利益剰余金	6,819	7,218
自己株式	△0	△0
株主資本合計	7,437	7,836
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	0	△0
その他の包括利益累計額合計	0	△0
非支配株主持分	△8	△8
純資産合計	7,429	7,827
負債純資産合計	17,030	20,323

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
売上高	13,665	13,132
売上原価	9,265	8,634
売上総利益	4,400	4,497
販売費及び一般管理費	2,835	3,004
営業利益	1,565	1,493
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	19	74
その他	0	2
営業外収益合計	20	76
営業外費用		
支払利息	15	17
その他	1	0
営業外費用合計	16	18
経常利益	1,568	1,551
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	1	9
特別損失合計	1	9
税金等調整前四半期純利益	1,567	1,542
法人税、住民税及び事業税	517	472
法人税等調整額	△5	39
法人税等合計	512	512
四半期純利益	1,054	1,030
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	23	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,030	1,030

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
四半期純利益	1,054	1,030
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11	—
為替換算調整勘定	△0	△0
その他の包括利益合計	10	△0
四半期包括利益	1,065	1,029
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,041	1,030
非支配株主に係る四半期包括利益	23	△0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,567	1,542
減価償却費	391	517
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	76	7
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△40	—
受取利息	△0	△0
支払利息	15	17
固定資産除却損	1	9
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
売上債権の増減額 (△は増加)	316	102
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△13	5
仕入債務の増減額 (△は減少)	△6	31
未払費用の増減額 (△は減少)	△177	△154
その他	△231	△45
小計	1,898	2,033
利息及び配当金の受取額	0	0
利息の支払額	△15	△17
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△320	△602
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,562	1,413
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,257	△2,257
無形固定資産の取得による支出	△6	△26
敷金及び保証金の差入による支出	△154	△54
敷金及び保証金の回収による収入	12	15
その他	1	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,403	△2,321
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	474	△50
長期借入れによる収入	—	3,000
長期借入金の返済による支出	△114	△114
リース債務の返済による支出	△14	△16
配当金の支払額	△472	△631
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△36	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△163	2,188
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4	1,280
現金及び現金同等物の期首残高	3,938	3,212
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,934	4,493

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	4,658	9,006	13,665	—	13,665
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	23	35	58	△58	—
計	4,681	9,042	13,723	△58	13,665
セグメント利益	1,328	997	2,326	△761	1,565

(注) 1. セグメント利益の調整額△761百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△761百万円及び調整額0百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	5,940	7,192	13,132	—	13,132
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	29	14	43	△43	—
計	5,969	7,206	13,176	△43	13,132
セグメント利益	1,621	697	2,318	△825	1,493

(注) 1. セグメント利益の調整額△825百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△825百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。